

受賞者からのコメント

● 授業を行うにあたって工夫していること

- 1 知識の枝葉・贅肉をとり、可及的骨格的知識のみを伝える。
- 2 過剰な知識量、情報量をあたえない。
- 3 必要時、板書する。
- 4 必要時、質問を投げかけ、学生にも考えてもらう。
- 5 ビジーなパワーポイントスライドは決してつくらない。ビジースライドは学生も理解出来ない。毎年、講義前に refine、推敲する。
- 6 各事象・知識の相互の繋がりを明解に伝える。学生に可及的、一元的に考えてもらう。
- 7 医学（人体）に高い示唆を与える関連現代生物学知識，その他知識も簡明に伝え、学生に考えてもらう。

● 学生への要望・アドバイス等

- 1 日本語教科書を読み切る。病理なら「病態病理学」、免疫なら「医科免疫学」。必ず当該学年中に読破し終える。
- 2 ネットの知識断片に決してたよらない。
- 3 英文教科書を必ず数冊読破する。病理学なら「Robbins Pathologic basis of diseases」免疫なら「Abbas Cellular and molecular immunology」
- 4 普段から外国語の勉強、会話鍛錬をかかさない。
- 5 医学の疑問点は疑問として不明のままでもいい、しかし、もち続ける。